

非核の政府を 求める大阪の会

ニュース

非核の政府を求める大阪の会 豊島 達哉 梅田 章二
 〒542-0012 大阪市中央区谷町 7-3-4 (新谷町第3ビル 210号)
 発 行 TEL.06(6765)3032 FAX.06(6765)3033
 URL : https://hikaku-osaka.jp/
 E-mail : hikaku-osaka1986@kind.ocn.ne.jp
 hikakuosaka@hotmail.com

第229号 2025年9月1日

被爆80年

若い世代への

被爆戦争の実相をどう伝えるか

「ひばく者の話を聞く会」と「ピースおおさか見学会」



7月26日、大阪市立社会福祉センターで、大阪原水協主催、新婦人大阪府本部・大阪平和委員会共催の若者企画「ひばく者の話を聞く会」と原爆パネル展、広島の高校生が描いた原爆の絵展が、また6月14日、当会主催の「ピースおおさかを見学しませんか」が開催されました。

第7回高校生・若者企画「被ばく者の話を聞く会」のおはなしは、狭川一三さん。狭川さんは、9才の時、長崎で被爆、親戚5人が犠牲になりましたが、戦後約40年間、誰にも被爆体験を話せなかったこと、被爆場所が、国の定める距離の外だったため被爆者と認められず、長らく「被爆体験者」の扱いでしたが、原爆裁判や当事者と支援者の粘り強い要請により、被爆80年

目の今年1月に被爆者と同等の医療費助成が受けられる「第2種健康診断特別区域医療受給者証」が交付されたことと語られました。それまでの苦しみを優しく語られます。罪のない市民の命を奪った原爆被害を二度と繰り返してはならない、世界中から核兵器のない世界を実現しようと呼びかけられました。

6月14日にピース大阪見学会が行われました。十五年戦争研究会の横山篤夫さんの体調不良のため、パートナーである横山芳子さんに急遽お願いすることになりました。1970年代から十数度にわたる市民団体の要請活動によって設立

された「大阪府平和記念戦争資料館」を母体として、大阪府と大阪市が共同出資した財団により1991年に開館しました。開館以来、戦争被害と加害の歴史の両方を広く公正な視野から展示してきた、全国的にも当時としては珍しい資料館でした。しかし、維新府政のもとで日本軍の加害行為についての展示は一切撤去され、大阪大空襲に特化した資料室に変質させられてしまいました。大阪大空襲に関して言えば、戦争遺物の展示もいくつかあり見ごたえはあるものでした。ただ戦争の悲惨さ不条理さを語り継ぐには、もっと展示や説明文について改善が必要とは思われます。ピースおおさかは、大阪城公園内にあります。かつて中国大陸侵略のための武器が造られた

大阪砲兵工廠跡に造られた資料館には戦争被害だけではなく、加害責任をしっかりと継承する役割が求められているのではないかと感じます。

感想

参加者の紹介をします。ピースおおさか設立の経緯がよくわかりました。歴史修正主義の勢力との闘いがあって現在に至っていること、そして、これからどんな展示にするのか、将に闘いになっていくのだと思いました。展示は、大阪大空襲や当時の大阪のこと、そこで暮らしていた人々、子どもたちのことが具体的な資料を通してよくわかるものでした。大阪の子どもたちには是非、見てもらいたいものでした。ありがとうございました。(I.K.)



(4頁に感想の続き)

【非核五項目】

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求め、
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する



日本被団協ノーベル平和賞授賞式報告会の記録
花垣ルミさんをノーベル平和賞授賞式に送る会



『さあ!! 核兵器のない地球へ』日本被団協ノーベル平和賞授賞式報告会の記録』

本書は、単にノーベル平和賞授賞のとりくみ式の参加報告書にとどまらないウクライナやガザ、さらにはイランに広がりをもせる核戦争の危機的状況のもとでの核兵器廃絶にむけた現実的なアプローチに示唆に富む論集の

冊子です。

講演をされたICANN会長川崎哲氏の『核兵器 禁止から廃絶へ』は、必読論文です。受賞会場となったオースロの状況が語られ、大國が「ならず者」となり、世界終末時計は「89秒前」との見出しなど、写真を掲載して非常によく読みやすく、これからの運動に確信がもてる論文となつています。

次いで、報告が3本掲載されています。報告①は被爆者で非核京都の会共同代表の花垣ルミ氏の「行ってきました! オスロでの受賞式」、報告②は被爆二世で科学者の小林立雄氏の「非同盟運動から生まれた核兵器禁止条約」、報告③は被爆三世でヒバクシャ国際のキ

ヤンペーンリーダーでした林田光弘氏の「核兵器に対する視点を変えるための声を」です。

冒頭には「花垣さんを送る会」の呼びかけ人の非核京都の会共同代表の中島晃氏の『報告会の記録』発刊にあたって、『あとがきには、「送る会」事務局の記録を同じく非核京都の会の長谷川長昭氏が執筆されています。非核京都の会の国際活動の一旦がうかがえる労作です。本冊子は「非売品」で、手に取りたい方は、非核京都の会に申し込んでください。1冊300円+送料負担です。詳細は非核大阪の会にお問い合わせください。

シリーズ大阪における国民 **平和** 大行進

1984年の平和行進：日本の核戦場化許すな、トマホーク配備反対のたたかいのなかでの平和行進 (7.5-11)

1984年は、米ソの核均衡論による核軍拡競争の激化、周辺域における軍事侵略、軍



事衝突の続発と、核巡航ミサイルトマホークの開發配備による核兵器使用、核戦争の危険の飛躍的増大となつていました。中曽根内閣は米レーガン政権の核支配戦略に積極的に対応し、核巡航ミサイルトマホークの配備容認と配備艦船の日本寄港容認、核攻撃機F16の三沢基地配備受け入れと、公然と非核三原則を反故にし、米国の核戦争最前線化を進めていました。内外の反核平和世論の拡がり、運動課題とホコ先の明確化が求められている1984年原水爆禁止世界大会でした。その成功に向けての国民平和大行進の役割はますます重要な運動課題となつていました。東京―広島―長崎のコース

められました。また国民平和大行進実行委員会主催の平和行進が和歌山コース、北海道コース、四国コースなどが11幹線コースで取り組まれました。

一方、社会党・総評は、80年9月に同盟などの労働戦線の右翼的再編推進勢力が結成した「統一推進会」が作成した反共主義と体制擁護の「基本構想」を了承して81年12月参加をきめました。

社会党も政権構想の範囲だけではなく全分野の活動において「社会党」路線を展開しました。82年末に「全労協」(全日本民間労働組合協議会)が結成されると、「基本構想」を再確認します。こうした労働戦線の右翼再編に対して統一労働組合は批判を展開します。83年の平和行進における統一労働組合問題はこうした流れの中で「統一」の美名にかくれた総評の分裂策動でした。

84年5月25日付

「読売新聞」に全通政治共闘部専門委員の高橋友一氏は原水爆禁止運動に全労協を参加させるために「(原水禁大会) 準備委員会は方針転換して、もつとゆるやかな組織にならない」などと語っています。

1984年の平和行進は、前年の大阪総評の横車で大阪での団体旗問題でありましたが、さらにエスカレートして東京―広島―長崎の全コースの問題となりました。昨年以上に複雑化したのは、そうした社会党・総評の策動に同調した日本原水協の代表(吉田嘉清氏ら)の行動です。後に判明することですが、吉田嘉清氏は1963年、ソ連共産党と通じていて、原水爆禁止運動を裏切っていました。日本原水協は世界大会準備委員をしていた吉田嘉清氏らを解任して新しい代表に変更しました。大阪における平和行進の概略は以下の通りです。

1984年の平和行進の取り組みは、昨年の団体旗問題（統一労組懇排除）のこともあり、いち早く3月29日平和行進大阪実行委員会第1回を開催して準備に入りました。基本方針として①統一行動の三原則（課題の一致、対等平等、暴力妨害集団の排除）の確認、②行進コースは昨年の基本とする、③旗は自由、④スローガンは原水爆禁止運動にふさわしいもの、⑤募金活動は自由、以上の5点を確認しました。5月18日東京夢の島を出発した平和行進は、団体旗をめぐる遺憾な事態が発生しました。自粛を「規制」とするような措置がとられ、あからさまな規制を要求する言動が現れました。さらに団体旗問題は「政党旗」の問題にまで拡大され、あからさまに日本共産党の党名を明記した旗への「規制」まで求められる事態となりました。さらに、重要なことは、

5月21日付で総評が各単産、県評に出した平和行進に関する指示文書の内容です。事実を捻じ曲げたうえで、あくまでも団体旗を規制し、原水協の行進参加者を統一平和行進と区別し、排除するというものでした。1958年以来の原水協が取り組んできた平和行進の乗っ取りを企図するものでした。このような事態にいたって、平和行進実行委員会事務局団体会議は、世界大会準備委員会と主な市民団体に5月30日次のような事項を通告しました。

①団体旗は自由である、②「団体旗 自粛」の口頭合意を破棄する、などです。

さらに総評に対して5月31日付で「総評第429号文書についての申し入れ」でその文書の撤回と今後、分裂・破壊に導くようなことをひきおこさないよう厳重に申し入れました。

大阪では、5月29

日PLP会館前の喫茶店において原水協（玉垣）と軍縮協（和田）の二人の会合、5月31日原水協関西ブロック会議、6月11日大阪平和行進実行委員会「平和行進のすすめ方について」で意思統一して、6月20日日生協関西支所で「84平和行進第三回打ち合わせ会議」で原水協（藤井・玉垣）、生協（浅野、林）、日本山妙法寺（池田）、軍縮協（和田）で会合が持たれました。最後まで、一致できないままでした。大阪原水協・平和行進実行委員会では行進直前の7月2日、84年平和行進活動者会議を開催し、最終的な意思統一を行い、7月5日の奈良からの引継ぎ集会を迎えました。柏原から八尾、東大阪の行進は統一行進としてはじまりましたが、6日から9日は、原水協、生協、軍縮協の三者がそれぞれのコースを行進することになりました。準備委員会は横断幕、桃太郎旗は

それぞれが分け持つて行進し、「分裂行進とはいわない」という三者は合意。10日か11日はそれぞれがデモ申請に従って行進しました。

原水協、平和行進実行委員会の隊列は軍縮協の隊列を圧倒する行進でそれに参加した組織・個人の民主的集団体制と団結の力が、複雑な局面での誤りなき対応を支える力となりました。中央における誤りの是正、新体制の確立と相まって、準備委員会主催の府下平和行進は、個別行進という形態をとりながらも真の統一行進の実現にむけて新たな展望を切り開くものとなりました。なお、市民行進のコースは原水協コースと同じものとなり、部分的には集会など共同で行いました。

『当会常任世話人 松山奉史さんを偲ぶ』

松山奉史さんが六月十日に逝去されました。八十三歳でした。昨年

はビキニ水爆被災七十年の集会に参加されて、その報告をされていました。今年二月には本会の総会で御会いしてお元気でしたので知らせに驚きました。追悼文を事務局より依頼され現実を認めて思い出に浸りました。これまでのご活躍に感謝致します。ご冥福をお祈りいたします。

私との出会いは松山さんが一九六九年に京大原子炉実験所に助手として第七部門に採用されて入所した時でした。すでに所員であった私は第一部門で原子炉の運転と実験設備管理が中心の業務でした。二人に共通の業務は外国や全国から実験で訪れる研究者の支援をする事でした。一九八〇年代に筑波大の白川英樹先生が大学院生を連れて実験に度々来所されていました。プラスチック材料は電気を通さない絶縁体でしたが、先生はポリアセチレンの薄膜を偶然に作りこ

を発見していました。先生の著作物によると当時助手であった松山さんは実験所での放射化学分析やメスバー効果分析で導電性に寄与している不純物分析を先生に提案していた様です。何が導電性に寄与しているかを調べその機構を解明するためです。

その後、二〇〇〇年に白川先生はノーベル化学賞を受賞されています。スマホのタッチパネルやリチウムイオン電池の材料として現代に欠かせないものです。華やかな研究の進展を支えるのは豊かな基礎研究の広がりと高度な技術です。実験所はこれに多少は応えたのではないかと考えています。私が助手に応募する時も松山さんの研究室によく相談に行きコーヒーを飲みながらこの点について議論したものです。研究においてどんなに素晴らしいアイデアや理論があっても実証されなければぼぼ徒労に終わ

ります。

最近では脱原子力発電所の雲行きが怪しくなっています。悲惨なこの事故で安全性の欠如が実物で実証されているにも関わらず、更に八十年前、核兵器については保有が相互の抑止力にならず保有する側の使用欲が上回り広島・長崎で使われてしまい悲惨な結果が起りました。人類の教訓としなければなりません。

常任世話人跡部紘三

ピース大阪見学会感想

(1面の続き)

恥しいことですが、ピースおおさか、初めての見学です。入館前に詳しい解説があり、問題意識をもって見学することができました。雨だったので自分だけでは見に行かなかったであろう「刻の庭」、空襲で亡くなられたおひとりおひとりの名前に言葉を失いました。戦術爆撃、戦略爆撃、よく理解できました。加害を語らず戦争被害だ

田辺模擬原爆追悼式

7月26日、25回目となる模擬原爆追悼式が東住吉区田辺の恩楽寺で開催されました。



けでは、なぜ多くの国民に苦難を与え、多くの被害を出した戦争の事はわかないと思いません。日本のした「侵略戦争」そこから語らないと・・・横山先生のお話、本当に良かったです。勉強になりました。(K・A)

平和の鐘つき&からほりピースフェスタ

8月6日、恒例の大阪宗平協主催の「平和の鐘つき」とからほり

ピースフェスタ実行委員会主催の「第15回からほりピースフェスタ」が妙徳寺で開催。

以来、毎年慰霊碑の前で「田辺模擬原爆追悼実行委員会」により追悼のつどいが行われてきました。今年は3人の被災者が体験を語り、近隣の小・中学生が平和学習で学んだことを発言。投下時刻の9時26分に黙祷を行いました。犠牲者を追悼しました。

ピースフェスタ実行委員会主催の「第15回からほりピースフェスタ」が妙徳寺で開催。平和の鐘つきは、広島に原爆が投下された午前8時15分に平和の鐘をならし、犠牲者の冥福を祈るため行われていて、今年は、近隣の保育園の子どもたちも参加。保育士さんに助けられながら一生懸命鐘をついていました。その後のからほりピースフェスタでは、妙徳寺の高木住職のおはなし、原爆パネル展、核兵器禁止条約への批准を求める賛同署名などが取り組まれ、近くの谷町劇場で、劇団大阪

による朗読劇「父と暮らせば」の上演が行われました。

新任世話人紹介

大阪教職員組合委員長の北川美千代です。

4月から常任世話人になりました。よろしくお願ひします。

私は、長年、障害児

学校に勤め、子どもたちの成長を喜びながらこの子どもたちの未来を奪う戦争は、何があっても止めなければならぬと思います。組合専従になつてから核の問題や政治情勢などを学ぶ機会も増え、平和を守るために、仲間を増やし、声を上げ続けなければならぬ。その思いをいっそう強くしています。

戦後80年、被爆80年。これまで以上に、核兵器使用の危険性が高まり、戦争の足音が近づいています。日本が戦争をしていた時、子どもたちは「生きる」ことよりもたたかた「立派に死ぬ」ことを教え込まれ、人を殺す訓練をさせられました。

戦争をやめろ！核兵器をなくせ！
 「日本政府は一刻も早く核兵器禁止条約に参加を！」

非核の政府を求める大阪の会

▲写真の提供は西谷文和氏



そして、障害のある人は、役に立たないと差別を受けてきました。多くの人が、戦争で心身を傷つけられ、権利を奪われてきました。「平和つてなにか」の問いかけに「いのちが大切にされる」「水が飲める」「ご飯が食べられる」「学校へ行ける」と答えた小学2年生。「平和に生きる日々が、はやく世界のすべての人にひとしく訪れますように」と子どもたちは願っています。その願いにこたえられるよう、取り組みをすすめていきたいと思います。

- メインスローガン「戦争をやめろ！核兵器をなくせ！」
- サブスローガン「日本政府は一刻も早く核兵器禁止条約に参加を！」
- ◇賛同金：団体3000円、個人1000円
- ◇申し込み締め切り：11月末
- ◇申し込み先：非核の政府を求める大阪の会「意見広告係」
 大阪市中央区谷町7-3-4 新谷町第3ビル210号
 TEL:06-6765-3032 FAX:06-6765-3033

今年度の
意見広告ポスター
(募集大綱)